

－令和元年度発掘調査報告－

# 埋蔵文化財調査報告書

2022年2月

福崎町教育委員会

－令和元年度発掘調査報告－

# 埋蔵文化財調査報告書

2022年2月

福崎町教育委員会

## あ い さ つ

福崎町には旧石器時代から近世までの遺跡が150か所以上知られており、毎年開発等に伴い遺跡の発掘調査を行っています。

令和元年度はこれら発掘調査のほか、古くから横穴式石室をもつことが知られていた朝谷1号墳の測量調査を実施し、福崎町の歴史を更新する成果が得られています。

このたび、これら調査の結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和4年2月

福崎町教育委員会  
教育長 高橋 渉

## 例 言

1. 本書は、令和元年度に福崎町教育委員会が行った発掘調査報告書である。
2. 調査は、福崎町教育委員会が主体となり実施した。経費は、国庫補助金である。
3. 報告書は同じく補助金を充て福崎町教育委員会が主体となり実施した。
4. 調査体制は以下の通りである。

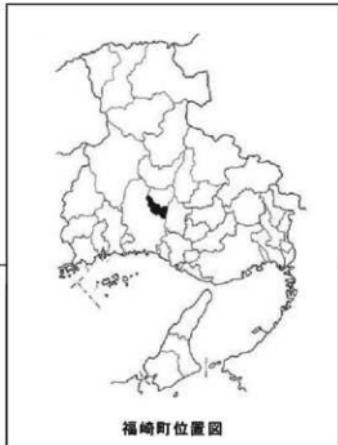
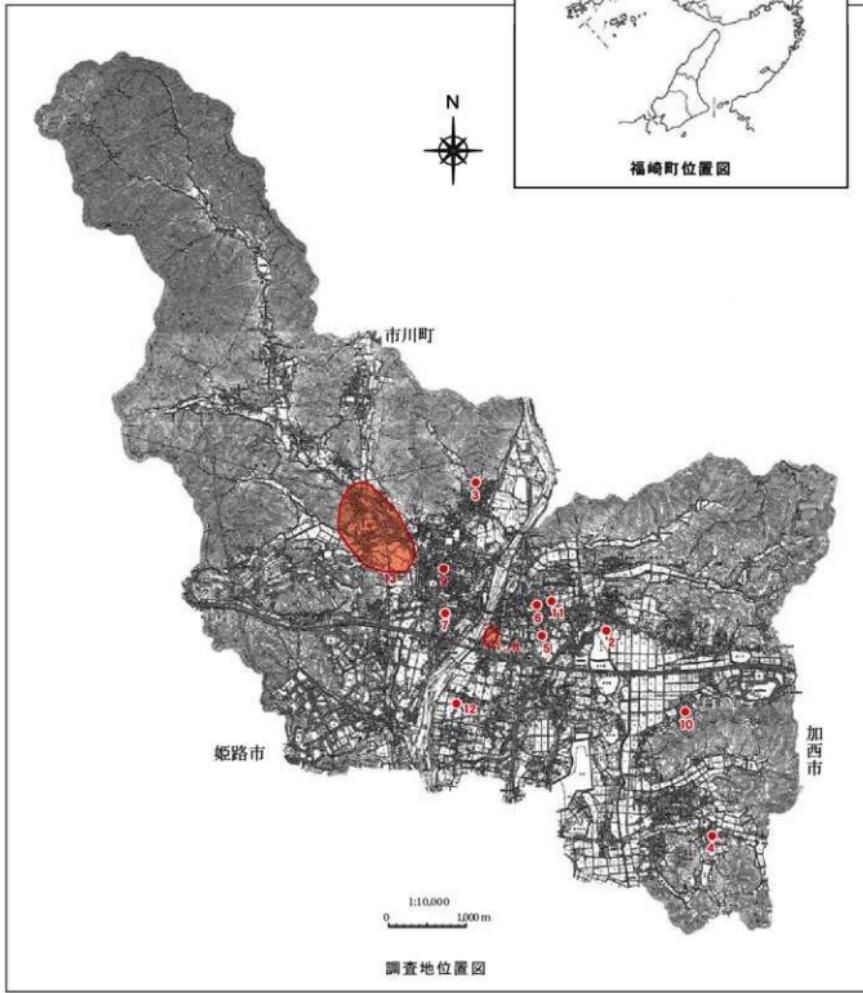
調査・管理事務局		整理作業・報告書担当
教 育 長	高寄 十郎（令和元年度）	社会教育課主査 樋口 碧
	高橋 渉（令和元度・令和2年度）	埋蔵文化財専門員 渡辺 昇
社会教育課長	大塚 久典（令和元年度）	整理作業員 梶 智美
社会教育課長	松田 清彦（令和2年度）	整理作業員 福永 明子
社会教育課副課長	森 公宏	整理作業員 原井川奈美
社会教育課課長補佐	中塚 喜博（令和元年度）	整理作業員 常陰ひとみ
社会教育課係長	藤原 元（令和2年度）	
社会教育課主査	長谷川幸子	
社会教育課主査	樋口 碧	

5. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福崎町設定の基準点を使用している。
6. 本書に掲載した図のうち遺跡位置図は福崎町発行の都市計画図（1/10,000）を、グリッド等配置図は福崎町都市計画図（縮尺は各図下に掲載）を編集したものである。
7. 掲載する遺跡はすべて福崎町教育委員会が調査主体となり実施した。整理作業も同様である。
8. 執筆は樋口・渡辺が行い、編集は梶・福永・原井川・常陰の協力を得た。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福崎町教育委員会にて保管している。
10. 調査・整理作業において多くの方々や機関にご指導・ご協力をいただきました。感謝します。

## 本文目次

あいさつ・例言

はじめに	1
I 令和元年度調査報告	
1. 南田原字北西試掘調査	2
2. 東田原字垣内田試掘調査	8
3. 山崎字地蔵垣内試掘調査	10
4. 八千種字小倉邸垣内試掘調査	12
5. 西田原字前田試掘調査	14
6. 西田原字裏畠試掘調査	17
7. 福崎新字因幡口試掘調査	19
8. 南田原字北西試掘調査	23
9. 中溝遺跡第4次調査	27
10. 大貫字南垣内試掘調査	30
11. 北野散布地第9次調査	32
12. 南田原字西垣内試掘調査	34
13. 高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う試掘確認調査	36
II 神崎郡福崎町山崎所在朝谷1号墳の測量調査報告 53	



## 令和元年度 埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	所 在 地	種 別	調査期間	時 代	遺 構	遺 物	調査面積
1	南田原字北西試掘	福崎町南田原字北西	試 掘	4月 8日、9日 (2日)	—	なし	なし	11か所 44m <sup>2</sup>
A	狐塚遺跡 (第1次)	福崎町高岡字 狐塚	本発掘	6月4日～1月24日 (21日)	平 安	溝 土坑	須恵器	1,906m <sup>2</sup>
B	林谷遺跡 (第1次)	福崎町高岡 字社ヶ一	本発掘	7月1日～11月7日 (33日)	绳 文 埴 良	落とし穴 竪穴住居 攝立柱建物	土師器 須恵器	2,560m <sup>2</sup>
2	東田原字垣内田 試掘	福崎町東田原 字垣内田	試 掘	7月2日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 4 m <sup>2</sup>
3	山崎字地蔵垣内 試掘	福崎町山崎 字地蔵垣内	試 掘	7月 2日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 4 m <sup>2</sup>
4	八千種字垣内 試掘	福崎町八千種 字垣内	試 掘	7月 9日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 4 m <sup>2</sup>
5	西田原字前田 試掘	福崎町西田原 字前田	試 掘	8月21日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 8 m <sup>2</sup>
6	西田原字裏畑 試掘	福崎町西田原 字裏畑	試 掘	10月 1日 (1日)	—	なし	なし	2 か所 8 m <sup>2</sup>
7	福崎新字因幡口 試掘	福崎町福崎新 字因幡口	試 掘	11月19日 (1日)	—	なし	なし	6 か所 24m <sup>2</sup>
8	南田原字北西 試掘	福崎町南田原 字北西	試 掘	12月9日、18日 (2日)	—	なし	なし	5 か所 20m <sup>2</sup>
9	中溝遺跡 (第4次)	福崎町福田 字中溝	確 認	12月18日 (1日)	奈 良	溝	須恵器	2 か所 8 m <sup>2</sup>
10	大貫字南垣内 試掘	福崎町大貫 字南垣内	試 掘	12月26日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 4 m <sup>2</sup>
11	北野散布地 (第9次)	福崎町西田原 字西廣岡	確 認	1月20日 (1日)	—	なし	なし	1 か所 5 m <sup>2</sup>
C	中溝遺跡 (第5次)	福崎町福田 字中溝	本発掘	2月 6日～20日 (10日)	弥 生 奈 良	竪穴住居 土坑・溝	弥生土器	528m <sup>2</sup>
12	南田原字西垣内 試掘	福崎町南田原 字西垣内	試 掘	2月17日	—	なし	なし	1 か所 4 m <sup>2</sup>
13	高岡・福田地区 ほ場整備事業に 伴う試掘確認	福崎町福田・ 高岡地内	試 掘	8月26日 ～2月26日 (21日)	—	なし	なし	84m <sup>2</sup>
B	山崎地区 ほ場整備事業に 伴う分布調査	福崎町山崎地内	分 布	4月12,17,22, 23,24日 (5日)	—	なし	土師器 須恵器 陶 器	33.6ha

N<sub>A</sub>のアルファベット遺跡は、本書には掲載していない。Aは町報告21、Cは町報告22を参照されたい。  
Bは近年中に刊行予定である。

# はじめに

## 調査の方法

基本的に機械を使用できるところは0.1m級の重機を使用して調査を行った。2×2mのグリッドを基本としたが、遺跡の種類や現状の地形によってトレーニング調査を実施した地点・遺跡もある。

掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行ったのち、埋め戻し作業も行っている。

## 地理的環境

福崎町は中国山地の東端で、兵庫県中央部の市川中流域に位置している。東西10.4km、南北12kmの45.82km<sup>2</sup>の面積である。町域中央に南北に市川が流れ、東西には山崎安富断層沿いに中国自動車道が通っている。市川中流域に狭くなっている箇所があり、その間を福崎盆地と呼称している。南側は飾磨郡と神崎郡を分ける姫路市砥堀で、北は市川町と福崎町の町境である福崎町山崎である。現在の行政区は福崎町と姫路市に分かれているが旧郡は神崎郡である。町域は市川とその支流である七種川によって形成された段丘面が見られる。山裾には麓肩面と扇状地が広がり、谷部は谷底平野と氾濫原になっている。福田高岡地区のは場整備地区で一部扇状地がある以外は、ほとんどの調査地点は段丘面から氾濫原・谷底平野に位置している。

その他、今年度調査した遺跡・調査地点ではほとんどが氾濫原・谷底平野に位置している。中溝遺跡・北野散布地は低位の段丘面になる。

## 歴史的環境

福崎町内では旧石器時代から近世の遺跡の存在が知られている。旧石器時代のナイフ形石器が南田原桶川遺跡・南田原条里遺跡・西広畠遺跡・大門遺跡から散発的に出土している。縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が南田原の西光寺で採集され、前期の土器は西大貫遺跡・加治谷大垣内遺跡で、後期の土器は西田原穴田遺跡・加治谷蔽下五反畑遺跡で出土している。遺構は落とし穴が八千種庄北挾遺跡・八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄春日遺跡の春日山西麓でまとまって確認されている。後期と思われる。晩期になると大門岡ノ下遺跡で竪穴住居が検出されており、石棒が出土している。

弥生時代前期の遺構の様相は不明であるが、中期になると遺跡数は増加する。南田原長目遺跡、上大明寺遺跡、北野寺西遺跡、西広畠遺跡、南田原条里遺跡、玉屋遺跡、西治下代ノ下モ遺跡などがある。朝谷遺跡、宮山遺跡からは壺棺が出土している。

古墳時代の集落遺跡は、上大明寺遺跡、加治谷蔽下五反畑遺跡、西治下代ノ下モ遺跡、林谷遺跡があり、いずれも竪穴住居が検出されている。加治谷蔽下五反畑遺跡、林谷遺跡のものはカマドを伴う。古墳は、高橋古墳群が最古で古墳時代中期の築造である。箱式石棺群で3号墳、4号墳の2基の調査がされており、鐵劍や鐵鎌が出土したと伝わる。相山古墳は町内で唯一埴輪が出土している。円筒埴輪を中心に、人物埴輪と思われるものも確認されている。後期になると、それまで丘陵上に築かれていた古墳は、山裾や平野部に増加する。妙徳山に所在する妙徳山古墳は、神崎郡でも最大級の石室を有する円墳である。谷川の南岸には東広畠古墳や東新田古墳などが所在し、いずれも鐵劍、鐵刀、馬具、鐵鎌などの鐵製品のほか耳環、勾玉、管玉などの装身具が出土している。

律令制が敷かれると、福崎町域は神前郡となる。南田原条里遺跡からは役所の遺構と考えられる大型の掘立柱建物が確認されている。高岡地区の矢口遺跡からは帶金具が出土しており、郡衙関連遺構が所在していた可能性がある。福田無量寺跡では、福田地区固寧倉の解体工事中に多量の瓦が検出された。礎石等、遺構は検出されていないが、字名が無量寺であることから寺院の可能性がある。

中世になると福崎町内には田原荘、高岡荘、藤山荘が成立する。市川町、加西市、福崎町にまたがって高峰山城、八千種地区に春日山城、姫路市香寺町にまたがって高橋城が築かれる。

## I 令和元年度調査報告

### 1. 南田原字北西試掘

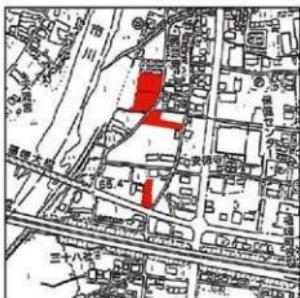
所在地 神崎郡福崎町南田原 3192-1、3193-1、  
2718-1、2726-1

事業名 宅地造成工事

調査担当 橋口 碧、渡辺 昇

調査面積 44 m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年4月8日（月）～9日（火）



調査地点の位置

#### ○調査に至る経過

宅地造成工事に伴って遺跡照会があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて平成31年4月1日（月）付けで事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成31年4月8日（月）、9日（火）に試掘調査を行った。

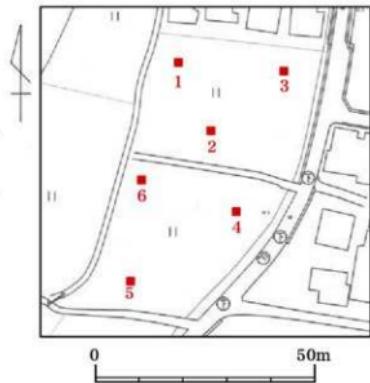
#### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。開発予定地にグリッドを11か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

#### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、氾濫原にある。

近接する南田原桶川遺跡では、遺跡内に安徳寺や桶川の泉が存在する。平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかっていないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。また、北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状遺構やピットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12～15世紀代）の少量の遺物が見つかった。その南に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかった。



#### ○調査の概要

開発予定地は大きく3つに分かれる。北側の田2枚を調査区①とし、1G～6Gを設けた。その

南東に位置する田を調査区②として7G～9G、南側の田を調査区③として10G、11Gを設けた。

##### 1 G

調査区の北西に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗灰黄シルト質粗砂、第3層は黄褐色シルト質粗砂、第4層はマンガン層、第5層はオリーブ褐色粗砂、第6層は砂礫層である。第3層から須恵器片が出土したが、二次的移動によるものと思われる。顯著な遺構は確認されなかつた。

##### 2 G

1 G の南東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗灰黄シルト質粗砂、第3層は

黄褐シルト質細砂、第4層はオリーブ褐極細砂である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 3 G

2Gの北東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は黄褐シルト質中砂、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層はオリーブ褐砂層である。第1層から近現代のものと思われる陶器片、第2層から奈良時代の須恵器が出土した。須恵器については、顕著な遺構は確認されなかったことから二次的移動によるものと思われる。

#### 4 G

3Gの南側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗灰黄シルト質粗砂、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層はオリーブ褐シルト質中砂、第5層はオリーブ褐極細砂である。第4層から須恵器片が出土したが、顕著な遺構は確認されなかったことから二次的移動によるものと思われる。

#### 5 G

4Gの北西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は黄褐シルト質粗砂、第3層はオリーブ褐シルト質細砂、第4層は暗灰黄シルト質細砂、第5層は褐シルト質中砂、第6層はオリーブ褐砂層である。第3層から須恵器片や土師器片が出土したが、顕著な遺構は確認されなかったことから二次的移動によるものと思われる。

#### 6 G

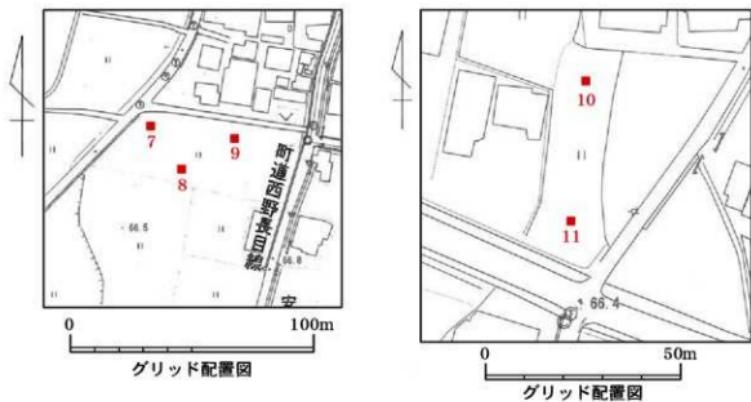
5Gの北西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は黄褐シルト質粗砂、第3層はマンガン層、第4層はオリーブ褐砂層である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 7 G

調査区の西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層はオリーブ褐シルト質粗砂、第3層は褐シルト質粗砂である。第3層は20cm程度の円礫を多く含んでおり、周囲と対比して地形が高くなっていることから、自然堤防と考えられる。第2層から土師器片が出土したが、顕著な遺構が確認されなかったことから、二次的移動によるものと思われる。

#### 8 G

7Gの南東側に設定したグリッドである。基本層序は7Gと同じである。遺構、遺物ともに確認されなかった。



### 9 G

8 G の北東側に設定したグリッドである。基本層序は 7 G と同じである。遺構、遺物ともに確認されなかった。

### 10G

調査区の北側に設定したグリッドである。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は暗灰黄シルト質粗砂である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

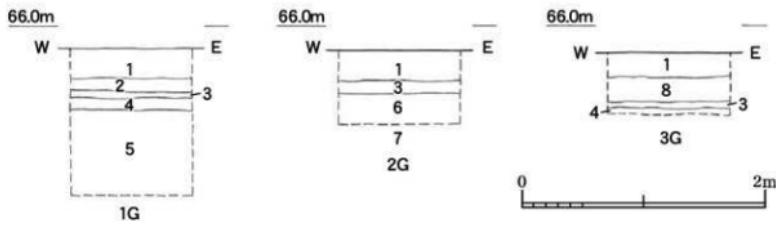
### 11G

10G の南側に設定したグリッドである。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は黒褐シルト質細砂、第 4 層は暗灰黄シルト質粗砂である。第 3 層から土師器片が出土した。顯著な遺構は確認されなかった。

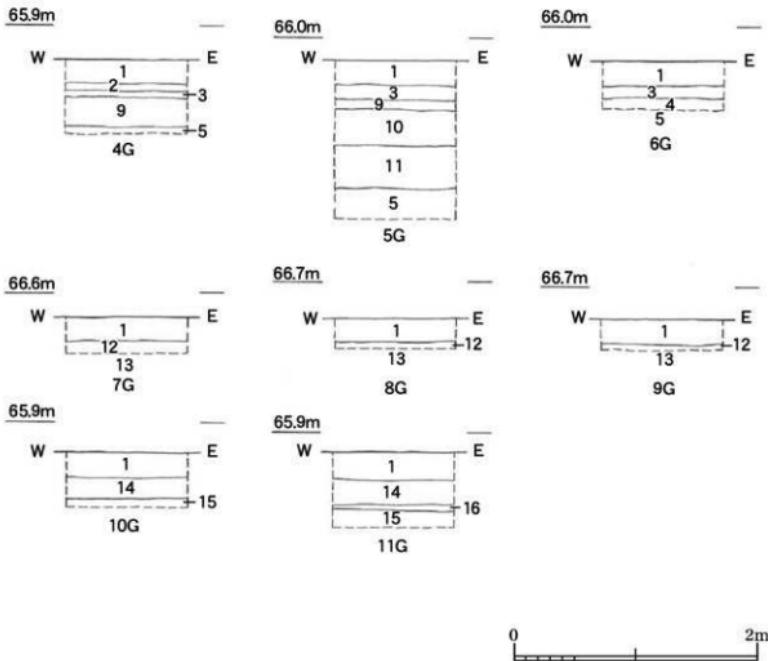
#### ○まとめ

今回の調査では、遺構は確認されなかったが、11Gにおいて黒褐色土層が確認された。遺物包含層の様相を呈しており、遺跡の端部と考えられる。7 G～9 G からは安定した面が確認されたものの、地表面から 30 cm 程度下から検出されており、遺構があったとしても後世の削平を受けたものと考えられる。

その他のグリッドからは安定した面は確認されず、円礫を含んだ洪水堆積層と思われる土層が検出されたことから、遺構は存在しないと考えられる。



土層図



- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 1 暗灰黄(2.5Y 4/2)シルト質粗砂(耕土)               | 9 オリーブ褐(2.5Y 4/4)シルト質細砂           |
| 2 暗灰黄(2.5Y 4/2)シルト質粗砂に黄褐(10YR 5/6)色土混ざる | 10 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂             |
| 3 黄褐(10YR 5/6)シルト質粗砂                    | 11 褐(10YR4/4)シルト質中砂               |
| 4 マンガン帶                                 | 12 オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質粗砂           |
| 5 オリーブ褐(2.5Y 4/4)砂層                     | 13 褐(10YR5/6)シルト質粗砂 20cm程度の円柱多く含む |
| 6 黄褐(2.5Y 5/3)シルト質粗砂                    | 14 明黄褐(10YR6/8)シルト質粗砂             |
| 7 オリーブ褐(2.5Y 4/6)極細砂                    | 15 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質粗砂             |
| 8 黄褐(2.5Y 5/4)シルト質中砂                    | 16 黒褐(10YR3/2)シルト質細砂              |

土層図



調査区① 調査前（北から）



調査区② 調査前（北西から）



調査区③ 調査前（南から）



1G（東から）



2G（南から）



3G（南から）



4G（南から）



5G（南から）



6G (南から)



調査区① 埋め戻し後



7G (南から)



8G (南から)



9G (南から)



10G (南から)



11G (南から)



調査区③ 埋め戻し後

## 2. 東田原字垣内田試掘

所在地 神崎郡福崎町東田原字垣内田 607  
事業名 倉庫新築工事  
調査担当 樋口 碧  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 7月 2日(火)

### ○調査に至る経過

倉庫新築工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受け平成 31 年 4 月 19 日(金) 付で事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年 7 月 2 日(火) に試掘調査を行った。



調査地点の位置

### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。建物建設予定地にグリッドを 1 か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸の高位段丘上に位置する。南に近代につくられた姫路市から福崎町にまたがる西光寺野台地の田畠をうるおすため池の 1 つである桜上池が所在する。

調査地点の東側では旧石器時代のサヌカイト製縦型剥片が採集されている。そのほか、現在は消失しているが、北側に町内最大の古墳であったと伝わる大門池ノ下古墳、さらに北側へと続く段丘上には奈良時代から中世の遺跡として知られる大門遺跡が所在する。大門岡ノ下遺跡からは縄文時代の竪穴住居から祭祀に用いられていたと考えられる石棒や石皿、敲石などの石器のほか縄文土器が確認されている。北西側には弥生時代から中世にかけての集落遺跡と考えられる北野散布地が所在する。

### ○調査の概要

#### 1 G

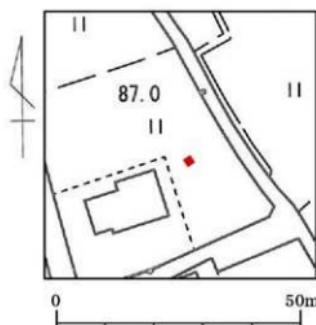
建物建設予定地の中央に設定したグリッドである。

層序は、第 1 層が耕土、第 2 層が地山である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

### ○まとめ

今回の調査では遺構、遺物ともに確認されなかった。北側に遺跡が知られていることから、当該地周辺にも遺跡が所在する可能性があり、今後も工事等に注意する必要がある。



グリッド配置図



土層図



調査前の状況



重機掘削



1G (南から)



埋め戻し後

### 3. 山崎字地蔵垣内試掘

所在地 神崎郡福崎町山崎字地蔵垣内 930-1  
事業名 個人住宅新築工事  
調査担当 橋口 碧  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 7月 2日(火)

#### ○調査に至る経過

個人住宅新築工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年 6月 27日(木) 付けで事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年 7月 2日(火) に試掘調査を行った。



調査地点の位置

#### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。建物建設予定地にグリッドを 1 か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

#### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、二之宮神社に近接する。市川西岸で東に市川、西に直谷川に挟まれた低位段丘上に位置する。二之宮神社の所在する山麓は、『播磨国風土記』によると建石敷命が住していたことから「神前山」と呼ばれていたそうだ。しかし、山麓周辺で奈良時代の遺跡は知られておらず、西側の山麓に弥生時代の壺棺が出土した朝谷遺跡や朝谷 1号墳、2号墳、馬ウ子古墳が知られているのみである。

#### ○調査の概要

##### 1 G

建物建設予定地南側に設定したグリッドである。

層序は、第 1 層が表土、第 2 層が造成土、第 3 層が暗褐色シルト質粗砂、第 4 層が褐褐色シルト質粗砂である。

第 3 層からピット状の掘り込みが見つかったが判然としておらず、性格については不明である。

遺物は第 3 層から土師器片が出土した。時期は小片のため不明である。

#### ○まとめ

今回の調査で、第 3 層からピット状遺構が確認された。

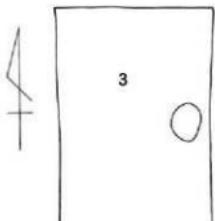
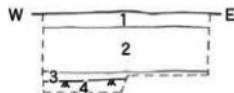
第 4 層は「神前山」から流れ込んだ土砂堆積層と考えられ、その上層に堆積した第 3 層に土師器片が混じる。層の厚さが 10cm 程度で礫を多く含むことから流れ込み、もしくは旧表土面の可能性がある。

この層は建物の基礎等の影響を受けないことから工事に差し支えないと判断する。



グリッド配置図

87.2m



1G

- 1 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(表土)
- 2 褐(10YR4/6)シルト質細砂(造成土)炭・2cm大粒含む
- 3 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂 2cm大粒含む
- 4 黒(7.5YR4/4)シルト質粗砂



土層図



調査前の状況



重機掘削



1G 面精査（南から）



1G 断面（南から）

#### 4. 八千種字小倉邸垣内試掘

所在地 神崎郡福崎町八千種字小倉邸垣内 1694  
事業名 個人住宅新築工事  
調査担当 橋口 碧  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 7月 9日(火)

##### ○調査に至る経過

個人住宅新築工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年 7月 5日(金) 付けて事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年 7月 9日(火) に試掘調査を行った。



調査地点の位置

##### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、畠地であった。建物建設予定地にグリッドを 1 か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

##### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸の中位段丘上、福崎町、姫路市、加西市にまたがる山塊の北端部に位置する。南西に中世の山城である春日山城跡、北東側の山麓に奈良時代の遺跡である八千種庄宮ノ池沢遺跡、八千種庄文治遺跡、八千種庄文治口遺跡、福井谷遺跡が所在する。八千種庄文治口遺跡からは土馬や木像、福井谷遺跡からは灰原が確認されていることから、奈良時代における須恵器工人の集落が所在していた可能性が高い。

##### ○調査の概要

###### 1 G

建物建設予定地中央に設定したグリッドである。

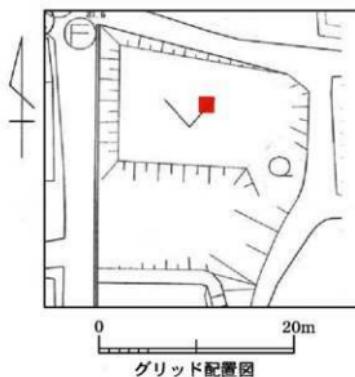
層序は、第 1 層が耕土、第 2 層が地山である。

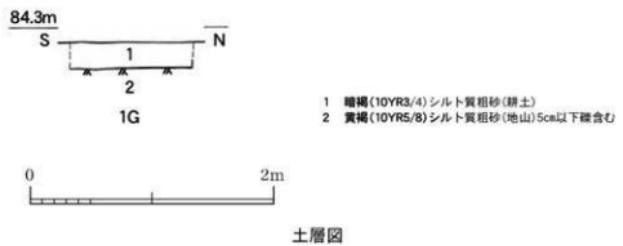
遺構、遺物ともに確認されなかった。

##### ○まとめ

今回の調査では遺構、遺物ともに確認されなかった。小倉地区では過去に調査歴がなく、段丘面から遺跡が確認されることが期待できたが、今回の調査地点では確認されなかった。

東側に若宮神社があり、そこから流れ込んできたと思われる瓦や土器片が調査地点から採集された。神社に近い段丘面からは、神社に関係する遺構が確認される可能性がある。





調査前の状況



重機掘削



1G (東から)



埋め戻し後

## 5. 西田原字前田試掘

所在地 神崎郡福崎町西田原字前田 1701 番 3  
事業名 宅地造成事業  
調査担当 橋口 碧  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 8 月 21 日(水)

### ○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けた令和元年 8 月 9 日(金) 付けて事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年 8 月 21 日(水) に試掘調査を行った。



調査地点の位置

### ○調査の方法

調査対象地区の地目は、休耕田である。開発事業区域に  $2 \times 4$  m のグリッドを 1 か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分は氾濫原に位置する。

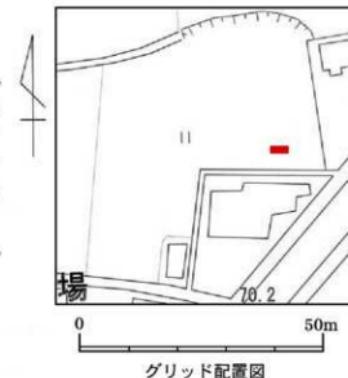
周知の遺跡としては、中世を中心とした西田原辻ノ前遺跡が南北方向にあり、さらに離れた南西の位置にやはり中世を中心とする南田原桶川遺跡が存在する。北西には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られている。東には西田原上野田遺跡、南東には西田原前田遺跡があり、ともに奈良時代から中世の遺物包含層が広く確認されている。北側の高位段丘面に広がる遺跡（西田原宮山遺跡、北野散布地など）は弥生時代から生活を営んでいる。西田原から南田原にかけての段丘面、氾濫原は現況では起伏があまり認められないが、旧河道や微高地が複雑に存在しているようである。また、洪水によって多くの遺物が広範囲に分布している。

### ○調査の概要

#### 1 G

北西側に設定したグリッドで、5 層からなっている。第 1 層は耕作土、第 2 層は床土、第 3 層は褐シルト質粗砂、第 4 層は暗褐シルト質粗砂、第 5 層は黒褐シルト質細砂で、大量の水が湧くため 1 m の段階で安全のため掘削を停止した。第 5 層は粘質土であり、洪水堆積層と思われる。

第 4 層で面精査を実施したが遺構は確認できなかった。遺物は須恵器、土師器、青磁が出土している。



グリッド配置図

## ○出土遺物

出土土器はコンテナ1箱分である。6点図化した。

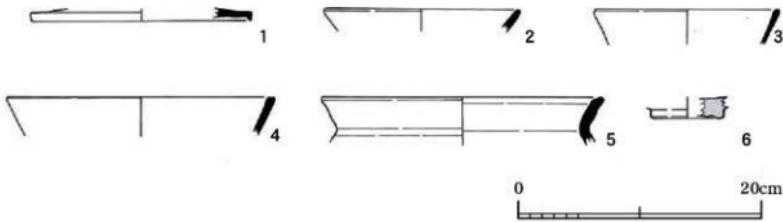
1は須恵器杯蓋である。口縁端部は垂直に摘まみ上げられ、器高は低い。2は須恵器鉢、3、4は須恵器椀でいずれも重ね焼き痕が見られる。2は口縁部の先端を平らに、3、4は丸くおさめる。5は須恵器甕の口縁部で先端は丸くおさめる。6は青磁碗の底部である。底部外面に重ね焼き痕が見られる。

時期は古墳時代から中世と幅がある。

## ○まとめ

今回の調査では、包含層から古墳から中世までの土器片が確認された。しかし、顕著な遺構は確認されず、安定した面も認められなかったが、近くに遺構が所在する可能性は高い。今回の調査地点の北西に近接する宅地の開発時に試掘調査を実施時にも遺構は確認されていない。今回、包含層に多くの土器片を含んでいたことから、引き続き周辺の開発時に調査が必要である。

今回の調査の結果、明確な遺構ならびに安定した遺構面は確認することができなかつたため、工事着手に支障はないと思われる。



遺物実測図

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	杯蓋	包含層	(17.8)	残1.0		ロクロナデ	ロクロナデ	
2	須恵器	椀	包含層	(16.0)	残1.8		ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕
3	須恵器	椀	包含層	(15.0)	残2.9		ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕
4	須恵器	鉢	包含層	(21.8)	残3.2		ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕・自然釉付着
5	須恵器	甕	包含層	(23.0)	残4.0		ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕
6	青磁	碗	包含層		残1.8	(5.7)			施釉

遺物観察表



調査前の状況



重機掘削・作業状況



1G（南から）



1G（北から）



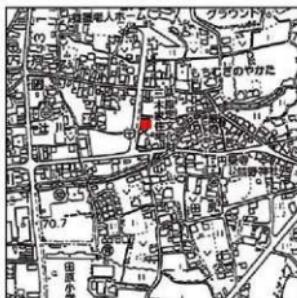
埋め戻し後



出土土器

## 6. 西田原字裏畠試掘調査

所在地 神崎郡福崎町西田原字裏畠 1479番  
事業名 病院新築工事  
調査担当 橋口 碧、渡辺 異  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年10月1日(火)



調査地点の位置

### ○調査に至る経過

病院新築工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年9月26日(木)付けで事業主体者が予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年10月1日(火)に試掘調査を行った。

### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。建物建設予定地にグリッドを2か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

地形について、宮山と呼ばれる山の南側に位置し、南に雲津川が流れる谷底平野に位置付けられる。

北西に弥生時代中期から古墳時代後期、中世、近世の遺跡である上大明寺遺跡、北東に弥生時代から平安時代の集落跡として知られる北野散布地が近接している。南西の段丘面に位置する西田原堂ノ前遺跡では奈良時代の集落跡が知られている。

### ○調査の概要

#### 1 G

建物建設予定地東側に設定したグリッドである。

層序は、第1層が造成土、第2層が旧建物基礎、第3層が砕石、第4層が暗オリーブ褐砂層、第5層が暗灰黄シルト質極細砂である。

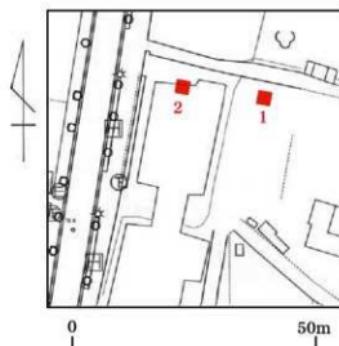
遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 2 G

建物西側に設定したグリッドである。

層序は、第1層が造成土、第2層が砕石、第3層がオリーブ褐シルト質粗砂、第4層が暗灰黄シルト質極細砂である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

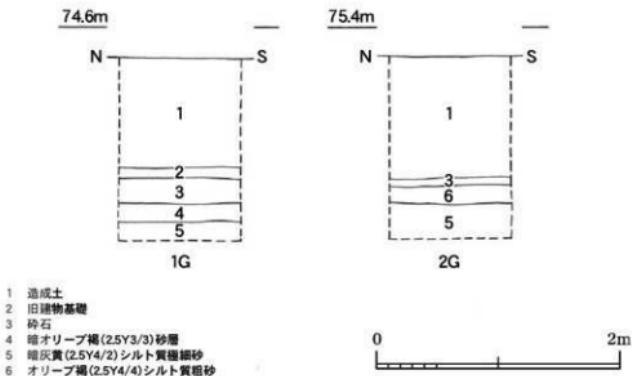


グリッド配置図

## ○まとめ

今回の調査では遺構、遺物ともに確認されなかった。砂層が確認されたことから、從来から谷底平野であり、その後宅地化されていたことが分かった。造成土には現代のビンや空き缶が含まれていた。

遺構、遺物ともに確認されなかったことから、工事着手に支障はないと判断する。



土層図



調査前の状況



重機掘削



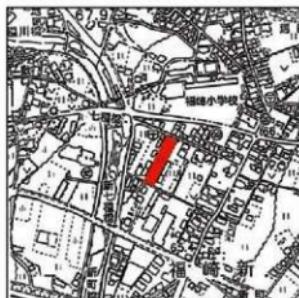
1G (西から)



2G (西から)

## 7. 福崎新字因幡口試掘

所在地 神崎郡福崎町福崎新字因幡口78、80番  
事業名 宅地造成工事  
調査担当 樋口 碧、渡辺 異  
調査面積 24 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年11月19日(火)



調査地点の位置

### ○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年11月6日(水)付けで事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年11月19日(火)に試掘調査を行った。

### ○調査の方法

調査対象地区の現状は、休耕田であった。宅地造成予定地にグリッドを6か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は東に市川、西に七種川に挟まれた氾濫原に位置する。近接して周知の埋蔵文化財包蔵地は所在せず、北に600m程度離れたところに弥生時代から中世に渡る集落遺跡である中溝遺跡があり、その300m東に位置する馬田字スガキでの試掘調査では包含層が検出され、土師器片や須恵器片が確認されている。

### ○調査の概要

北から順に番号を付した。

#### 1 G

4層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はオリーブ褐砂層、第4層は黄褐シルト質極細砂である。第3層、第4層は河川堆積層であり、第3層は20cm大、第4層は50cm大の河原石を多く含んでいた。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 2 G

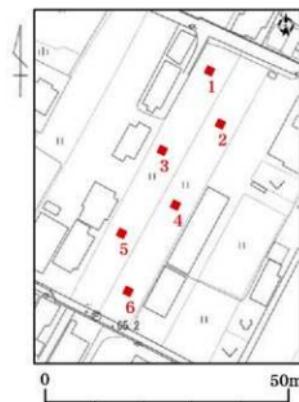
4層からなる。基本層序は1Gと同じである。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 3 G

4層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐砂層、第4層はぶい黄褐砂層である。第3層、第4層は河川堆積層であり、第3層は50cm大、第4層は20cm大の河原石を多く含んでいた。

遺構、遺物ともに確認されなかった。



グリッド配置図

#### 4 G

5層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はオリーブ褐砂層、第4層は褐シルト質砂層、第5層はオリーブ褐砂層である。第3層から第5層は河川堆積層で、いずれも20cm大の河原石を多く含んでいた。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 5 G

5層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐砂層、第4層はオリーブ褐砂層、第5層はオリーブ褐砂層である。第3層から第5層は河川堆積層で、いずれも20cm大の河原石を多く含んでいた。

第1層から近代の瓦片、陶器片が確認された。

遺構は確認されなかった。

#### 6 G

基本層序は5Gと同じである。第2層から製塩土器と思われる土器片が確認された。小片のため、時期は不明である。

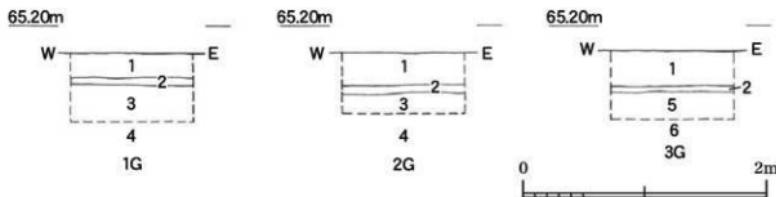
遺構は確認されなかった。

### ○まとめ

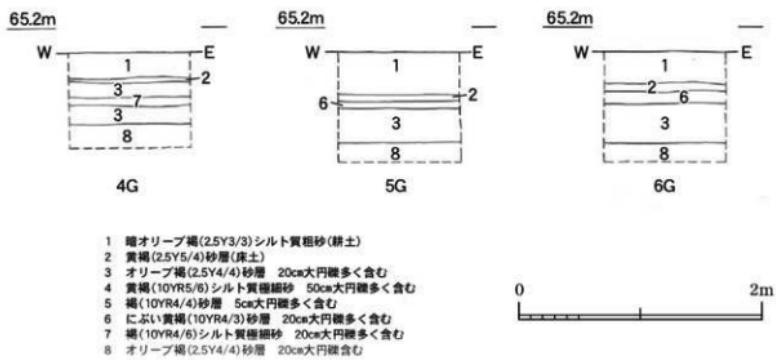
今回設定したすべてのグリッドから河川堆積層が確認された。ただし、1Gから3Gでは河原石を多く含む砂層が、4Gから6Gでは河原石をほとんど含まない砂層が最下層で確認されていることが異なる。いずれも七種川の氾濫による堆積層と考えられるが、位置によって層が異なること、5G、6Gから土器片が確認されたことから、近接して遺構の存在が推測できる。

周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、平成19年に調査地点北側約500mに位置する馬田字スガキでの試掘調査から安定した面と土器の出土が確認されている。氾濫原内の微高地上から遺跡が確認されている状況から、今後も注意して調査を実施することで、新たな遺構の確認が期待される地域である。

今回の調査では、いずれのグリッドからも遺構が確認されなかったことから、工事に支障はないと言える。



土層図



土層図



調査前の状況（南から）



重機掘削



1G（南から）



2G（南から）



3G (南から)



4G (南から)



5G (南から)



6G (南から)



人力掘削



埋め戻し後のようにす

## 8. 南田原字北西試掘

所在地 神崎郡福崎町南田原2719番5他  
事業名 宅地造成工事  
調査担当 樋口 碧、渡辺 畿  
調査面積 20m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年12月9日(火)、18日(水)



調査地点の位置

### ○調査に至る経過

宅地造成工事に伴って遺跡照会があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年11月27日(月)付けで事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和元年12月9日(月)、18日(水)に試掘調査を行った。

### ○調査の方法

調査対象地区は、休耕田であった。開発予定箇所には2枚の田があり、東側の1枚に3か所、西側に2か所グリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、氾濫原にあたる。

近接する南田原桶川遺跡では、遺跡内に安徳寺や桶川の泉が存在する。平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかってはいないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。また、北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状構造やピットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12~15世紀代）の少量の遺物が見つかった。その南に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかった。

### ○調査の概要

#### 1 G

申請地の東に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐色シルト質粗砂、第4層は地山である。第3層から須恵器片が確認された。また、地山から直径20cm程度のピットが2基確認された。

#### 2 G

申請地の中央に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト質粗砂である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 3 G

申請地の西に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト質粗砂である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 4 G

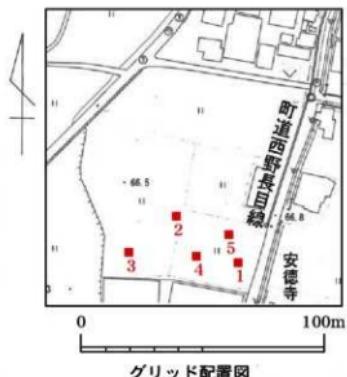
1Gで遺構が検出されたことから遺構の範囲を確認するため1Gの西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐色シルト質細砂、第4層は地山である。第3層から須恵器片が確認された。顯著な遺構は確認されなかった。

出土した須恵器は杯蓋であり、口縁端部は摘み上げられている。胎土は極めて精良であり、外面上に放射線状のユビナデ痕跡が見られる。奈良時代のものと考えられる。

### 5 G

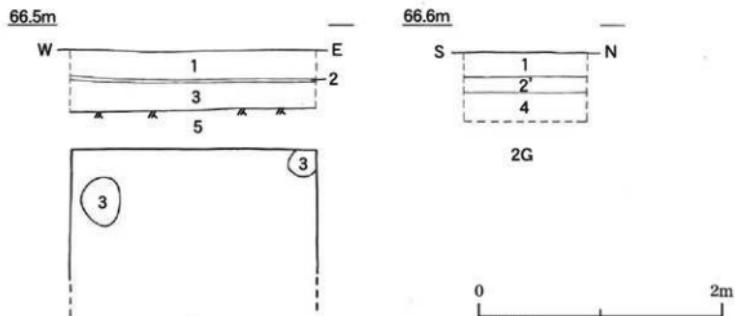
1G 北側に建物が建築されることから、遺構の範囲を確認するため 1G の北側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐シルト質細砂、第4層は地山である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。



番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整	備考
				口径	器高	底径		
1	須恵器	杯蓋	4G		残2.0	(16.9)	口クロナデ	口クロナデ

遺物観察表



土層図



土層図

### ○まとめ

今回の調査で、周知の埋蔵文化財包蔵地に近接している申請地の南東部分に設定した1Gで遺構が確認された。遺構の範囲を確認するために設定した4Gからは、1Gと同様の土層の堆積状況が確認できたが、遺構は検出していない。したがって、遺跡の西限を1Gの西側、同様に5Gから遺構が確認されなかったことから遺跡の北限を1Gの北側とする。

工事にあたっては、周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について県教委に報告し、93条の届出をもって対応することとする。

今回の調査の結果、遺構が確認された。遺構が確認されたのは駐車場予定地で盛土が行われるが、擁壁や水道管等の設置で掘削が伴う箇所があるため、申請地の南東部分については工事立会で対応する。



調査前（東から）



1G（南から）



1G ピット検出状況



2G (東から)



作業のようす



重機掘削



3G (東から)



4G (南から)



5G (東から)



埋め戻し後状況

## 9. 中溝遺跡（第4次）

所在地 神崎郡福崎町福田字中溝 299-6  
事業名 福崎駅周辺整備造成工事  
調査担当 樋口 碧、渡辺 異  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年12月18日(水)

### ○調査に至る経過

駅前周辺整備造成工事が計画されていることから、令和元年12月18日(水)付けで福崎町まちづくり課から93条の届出が提出され、同日に確認調査を行った。



調査地点の位置

### ○調査の方法

調査地点は、宅地・道路であった。グリッドを1か所設定した。舗装等は重機で掘削し、壁面及び遺構は人力で精査した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置している。遺跡は線路を隔てた福崎駅北側に清水遺跡が、東北東に福田東田黒遺跡が、東側の馬田字スガキに周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが遺構面が存在することが分かっている。

福崎駅周辺は宅地化が早く地表面の確認が実施できず、埋蔵文化財の存在が不明確な地域であったが、平成28年度、29年度の駅前周辺整備事業に伴う試掘調査により、現在の福崎駅周辺に遺跡が確認され、字名から中溝遺跡として県に報告している。平成28年度に道路敷設地で本調査（第1次調査）を実施し、中世の遺構が確認されたほか、平成30年度に観光交流センター建設地（第3次調査）の本調査を実施したところ、弥生時代及び奈良時代の溝等が確認されている。

### ○調査の概要

平成28年度に店舗建設予定地にグリッドを1か所設けているため、今回の調査ではグリッドを2か所設けた。

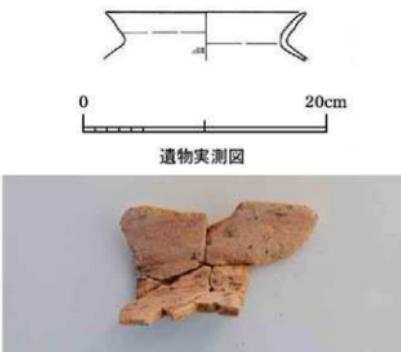
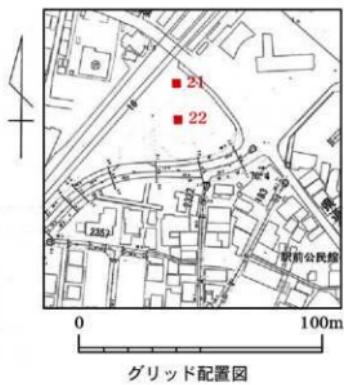
#### 21G

建物建設予定地北東側に設定した。碎石、盛土の下は地山であった。第8層の盛土に掘り込みがあり、材木や多量の礫が確認された。当該地は過去に材木工場であったようで、この掘り込みはゴミ捨て場であったものと考えられる。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

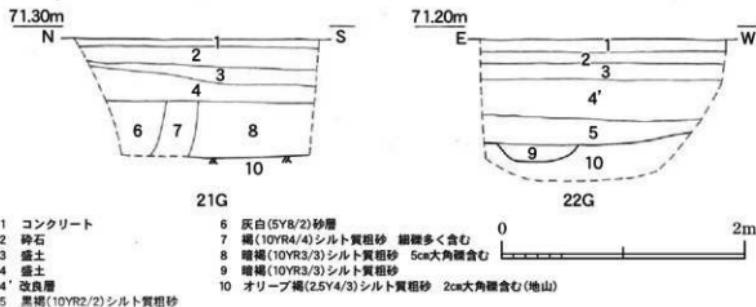
#### 22G

建物建設予定地南西側に設定した。碎石・盛土の下に遺物包含層及び溝状の遺構が確認された。第9層は暗褐色シルト質粗砂の遺物包含層で、古代の土師器甕が出土した。



番号	種別	器種	通横	法量(cm)			調整		備考
				口徑	器高	底径	外	内	
1	土師器	壺	22G	(16.2)	残4.0		ハケメ		

遺物観察表



土層図

## ○まとめ

2 G から古代のものと思われる遺構が確認された。2 G の南側で平成 28 年度に道路敷設工事伴う本調査を実施したところ、中世の掘立柱建物が検出されている。また、平成 30 年度に観光交流センター建設地で本調査を実施したところ、奈良時代の溝等の遺構が検出されている。福崎駅周辺では古代、中世の遺構が広がっていると言えるが、平成 28 年度の試掘調査の結果、遺構の一部は近代の開発等により影響を受けたことが分かっている。

今回の調査の結果、建物建設予定地南西側で遺構が確認された。基礎等の掘削で影響のある部分については本調査が必要と判断する。



21G 調査前（南から）



22G 調査前（北から）



重機掘削



21G（西から）



22G（北から）



埋め戻し状況



21G 埋め戻し後



22G 埋め戻し後

## 10. 大貫字南垣内試掘

所在 地 神崎郡福崎町大貫字南垣内 404-1 他  
事 業 名 宅地造成工事  
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 12 月 26 日(木)

### ○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所の周囲で調査歴がないこと、工事箇所が段丘上に位置していることから、試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和元年 12 月 17 日(火)に予備調査依頼が提出され、協力を得て令和元年 12 月 26 日(木)に試掘調査を行った。



調査地点の位置

### ○調査の方法

調査地点は、畠地であった。建物建築予定地にグリッドを 1 か所設定した。表土は重機で掘削し、壁面は人力で精査した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。

調査地点の北側には古墳時代から中世の遺跡として知られるタイノ前遺跡が所在する。

調査地点周辺は、古くから集落を形成しており、過去に調査が行われておらず、新たな遺跡が発見される可能性がある地区である。

### ○調査の概要

#### 1 G

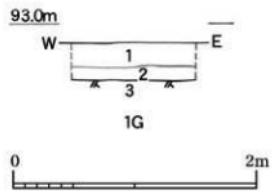
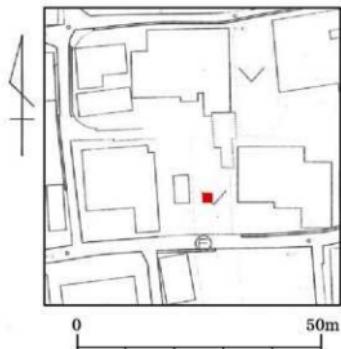
建物建設予定地に設定した。3 層からなっている。第 1 層は暗オリーブ褐色シルト質粗砂（耕土）、第 2 層は褐シルト質粗砂（床土）、第 3 層は黄褐色シルト質粗砂（地山）である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

### ○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。元来の地形を宅地化した際、地山を削平したと考えられる。地表面は安定しており、周辺の調査でも試掘調査を行うなど、注意が必要である。

今回の調査の結果、遺構が確認されなかったことから、工事に支障はない判断する。



- 1 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 2 褐色(10YR4/4)シルト質粗砂(床土)
- 3 黄褐色(10YR5/8)シルト質粗砂 明黄褐色(10YR7/8)色土まだらに含む(地山)



調査前



重機掘削



作業風景



1G (北から)

## 11. 北野散布地確認調査（第9次）

所在地 神崎郡福崎町西田原 1002  
事業名 土地造成工事  
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇  
調査面積 5 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和2年1月20日(月)

### ○調査に至る経過

令和2年1月7日(火) 付けて、事業主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地における土地造成工事にかかる93条の届出が提出された。令和2年1月20日(月) に確認調査を行った。



調査地点の位置

### ○調査の方法

調査対象地区は、宅地であった。擁壁設置予定箇所にグリッドを設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にある。調査の結果、北西部には礫層が出ていることからも南東から北西に向けて大きく傾斜していた地形であることが窺える。水田開発によって段丘面の高い部分が削平されたと思われる。

北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。須恵器・土師器が多く、古代を中心とする遺跡と思われていた。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。遺跡の東端で実施した第4次調査では弥生時代末から古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物のほか、平安時代の遺構も確認されており、当遺跡に継続して集落遺跡が所在していたことが明らかとなった。

### ○調査の概要

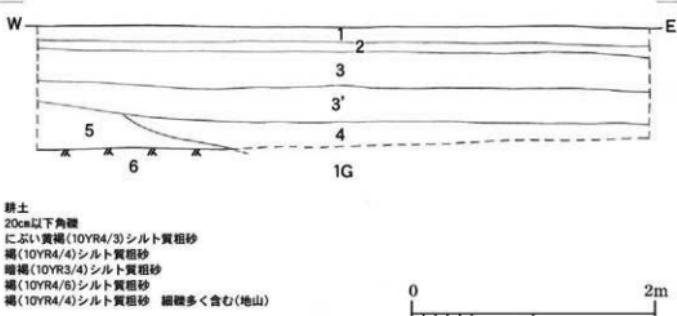
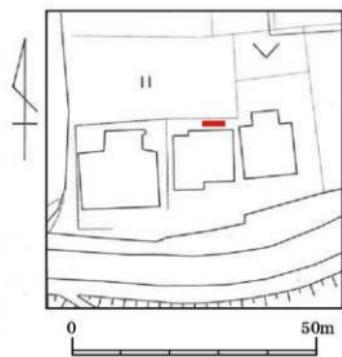
#### 1 G

擁壁設置予定地北東側に設定したグリッドで、第1層は耕土、第2層は礫層（基盤土上に礫が敷き詰められた層）、第3層はにぶい黄褐色シルト質粗砂、第3'層は褐色シルト質粗砂、第4層は暗褐色シルト質粗砂（遺物包含層）、第5層は褐色シルト質粗砂、第6層は褐色シルト質粗砂で地山である。第4層は遺物包含層で、東に向かって下がっている。顕著な遺構は検出されなかった。

### ○まとめ

今回の調査地点のすぐ北西側の筆で確認調査を実施したが、顕著な遺構が確認されておらず、今回の調査地点で遺跡の端を確認できることが期待できた。今回の調査では顕著な遺構は確認されなかつたものの、包含層が確認されたことから遺跡の西端と考えられる。

今回の調査の結果、包含層が確認されたが範囲は申請地東側に限定されるようであり、顕著な遺構も確認されていない。工事内容が擁壁設置で掘削幅が0.8mであることからも、慎重工事で対応する。



調査前の状況（南東から）



1G（南から）

## 12. 南田原字西垣内試掘

所在地 神崎郡福崎町南田原字西垣内 2467 番の一部  
事業名 個人住宅新築工事  
調査担当 橋口 碧  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和2年2月17日(月)



調査地点の位置

### ○調査に至る経過

個人住宅新築工事に伴って遺跡照会があり、埋蔵文化財の所在の有無と状況を確認するための試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて令和2年2月5日(水)付けで事業主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て令和2年2月17日(月)に試掘調査を行った。

### ○調査の方法

調査対象地区は、宅地であった。建物建築予定箇所に1か所グリッドを設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川の氾濫原にある。

近接する南田原条里遺跡では、弥生時代から中世の遺構が確認されている。中島井ノ口線を挟んで東側には、開発が進んでいるため調査数が増加傾向にあり、徐々に遺跡の状況が明らかになりつつある。一方、今回の調査区が位置する中島井ノ口線東側に関しては、かねてより集落や田畠が広がっており、店舗等の開発があまりなかった地区であるために、遺跡の状況も分かっていない。

### ○調査の概要

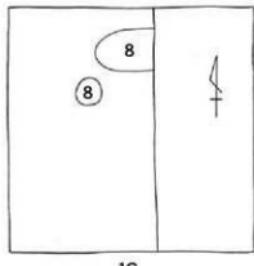
#### 1 G

建物建築予定地に設定した。第1層は表土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト質中砂、第4層は褐シルト質細砂、第5層はオリーブ褐色シルト質極細砂、第6層は暗褐色シルト質中砂、第7層はにぶい黄褐色シルト質中砂である。第4層から土師器片が確認された。また、第5層上面からピット状の掘り込みが確認できたが、安定した面でないため、遺構とは判断しなかった。砂粒を多く含むことから、第4層以下は調査地点西側を流れる市川の氾濫による堆積層と考える。

### ○まとめ

今回の調査で、第4層から土器片を1点採集したが、顕著な遺構は確認されなかった。床土の下に造成土と思われる堆積層があり、その下は土器片をごく少量含む層で遺構の確認が期待できたが、それ以下は砂粒を多く含む層であったため、市川の氾濫による堆積のものと考えられる。第3層、第4層に炭が含まれることから、近接する微高地に遺構が存在する可能性がある。

今回の調査の結果、土器片が確認された。しかし、顕著な遺構は確認されず、また安定した面も確認できなかったため、工事着手に問題はないとの判断とする。



- 1 稲土
- 2 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質粗砂 底土
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中砂 灰含む
- 4 褐色(10YR4/4)シルト質細砂 包含層
- 5 オリーブ褐色(2.5Y4/6)シルト質細砂
- 6 暗褐色(10YR3/4)シルト質中砂
- 7 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中砂
- 8 4の土に炭・P含む



土層図

**13. 高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う試掘確認**  
**所 在 地** 神崎郡福崎町福田、高岡地内  
**事 業 名** ほ場整備事業  
**調査担当** 橋口 碧、渡辺 昇  
**調査面積** 試掘・確認調査  
**調査期間** 令和元年8月26日(月)  
～令和2年2月26日(水)(21日間)



調査地点の位置

#### ○調査に至る経過

高岡福田地区においてはほ場整備事業の計画があり、平成28、29年度に試掘・確認調査を実施したが、県土地改良センターにて設計及び計画地の変更があったため、令和元年度に追加の調査を実施することとなった。

#### ○調査の方法

調査対象地区の大半は、水田であった。2m×2mのグリッドを基準として計21か所設定した。46、61、63、64、157に関してはトレンチを設定した。掘り下げは重機を用い、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

#### ○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸に位置し、市川と市川の支流である七種川によって形成された段丘面ならびに氾濫原にある。事業地の中に旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。事業地内を流れる大内川も一時期の旧河道の1つであったと思われ、現在は河道となっている。北西から砂州状に延びている微高地に観音堂遺跡が立地していたものと思われる。その南側の低位氾濫原と考えられる部分は、自然流路の一部と考えられる。さらに南側に西側丘陵から延びる微高地があり、そこに宮ノ前遺跡が広がっている。尾根上から段丘面の一部は水田開削による削平を受けている。両遺跡ともに遺跡内に旧河道が認められる。

平成27、28年度実施の観音堂遺跡、宮ノ前遺跡確認調査の結果、遺跡の大半から遺構が確認された。両遺跡の間には旧河道が確認されており、遺跡の一部にもその痕跡が見られた。採集された土器から弥生時代から中世に至る時代の遺構があると考えられる。

また、試掘調査の結果、桜竹之後遺跡、桜東畠遺跡、長野諏訪神社周辺遺跡、神谷ヤブノハナ遺跡が新たに発見されており、事業計画地内の遺構の様相が明らかとなった。神谷ヤブノハナ遺跡からは土坑やピットが確認されており、古代の集落跡と思われる。また、遺跡の西方に位置する矢口遺跡からは、律令期の役人が使用したと言われるベルト（鎔帶）の部品（巡方）が出土している。桜竹之後遺跡では試掘調査でピットが4基確認されており、陶磁器片が採集されたことから中世の遺跡と考えられる。長野諏訪神社周辺遺跡からは落ち込み・土坑・溝・ピットを確認しており、古墳時代から中世にかけての集落跡と思われる。

福田地区から山崎地区の丘陵には後期古墳が構築され、神谷地区の医王寺境内には後期末の方墳である神谷古墳が存在する。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は福崎町内唯一の古代寺院である。

## ○調査の概要

北工区の101G、102G、南工区の181G、182Gは平成30年度には場整備事業地に追加されたため、追加の試掘調査を実施した。その他については、遺構の範囲を限定するために追加で設けたグリッド及びトレーンチである。

### 観音堂遺跡

#### 32G-1

5層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はオリーブ褐シルト質粗砂、第4層はオリーブ褐シルト質粗砂、第5層はにぶい黄褐シルト質粗砂である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 35G-2

6層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は旧耕土、第4層は黄褐シルト質細砂、第5層は褐シルト質細砂、第6層は褐シルト質細砂である。第4層以下は河川堆積土と考えられる。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 35G-3

6層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐シルト質細砂、第4層は褐砂層、第5層はにぶい黄褐砂層、第6層は褐シルト質極細砂である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 41G-2

3層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐礫砂である。第2層から鋤溝が確認された。第3層以下は河川堆積層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 41G-3

5層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐シルト質細砂、第4層は褐シルト質細砂、第5層はにぶい黄褐シルト質細砂である。第2層から鋤溝が確認された。第3層以下は河川堆積層である。

土師器片、須恵器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

#### 40G-2

4層からなる。第1層は耕土、第2層は黄褐シルト質粗砂、第3層は暗褐シルト質細砂、第4層はオリーブ褐シルト質細砂である。第4層から溝状の掘り込みが確認されたが、旧河川のものと思われる。

土師器片、須恵器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

### 宮ノ前遺跡

#### 87G-2

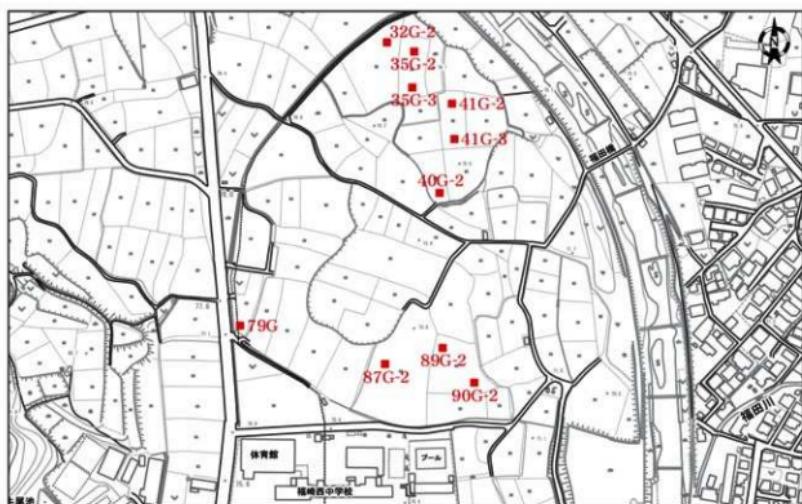
3層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は地山である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

#### 89G-2

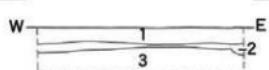
4層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層はにぶい黄褐砂層である。第3、4層は河川堆積層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

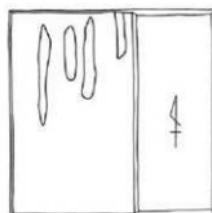
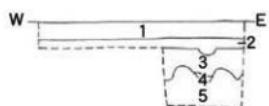


0 70m

75.56m



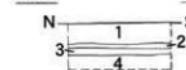
75.56m 41G-2



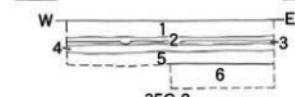
41G-3

0 2m

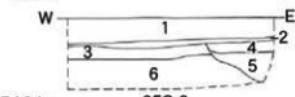
75.7m



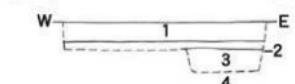
75.7m 32G-2



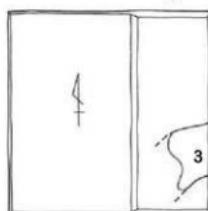
75.7m



74.94m



土層図



40G-2

## 90G-2

4層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト質粗砂、第4層は暗褐色シルト質細砂である。第3、4層は河川堆積層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

## 79G

5層からなる。第1層は耕土、第2層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第3層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第4層は暗褐色シルト質粗砂、第5層は地山である。土師器片が採集され、地山から溝状の遺構とピットが確認された。

## 152G-2

5層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐色シルト質粗砂、第4層は褐色シルト質粗砂、第5層は褐色砂層である。第4、5層は河川堆積層である。

土師器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

## 152G-3

基本層序は152G-2と同じである。第5層の下から地山が確認された。遺構の端部であると考えられる。第6層はにぶい黄褐色砂層で、河川等の堆積層と考えられる。

顯著な遺構は確認されなかった。

## 46T

4層からなる。第1層は耕土、第2層は造成土、第3層は灰黃褐色シルト質細砂、第4層は地山である。水田の造成来歴が見受けられる。

顯著な遺構は確認されなかった。

## 61T

4層からなる。第1層は耕土、第2層はにぶい黄褐色シルト質極細砂、第3層は灰黃褐色シルト質細砂、第4層は地山である。トレチの東西で土層の堆積状況が異なるが、遺構ではなく、水田成形時の造成によるものと思われる。

土師器片、須恵器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

## 63T

3層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は地山である。トレチの東西で土層の堆積状況が変わる。これは、旧の筆の区画あるいは造成の来歴を示すものと思われる。東端の断ち割りを行ったところ、ピット状の掘り込みが確認された。また、須恵器蓋や甕が採集された。奈良時代のものと思われる。

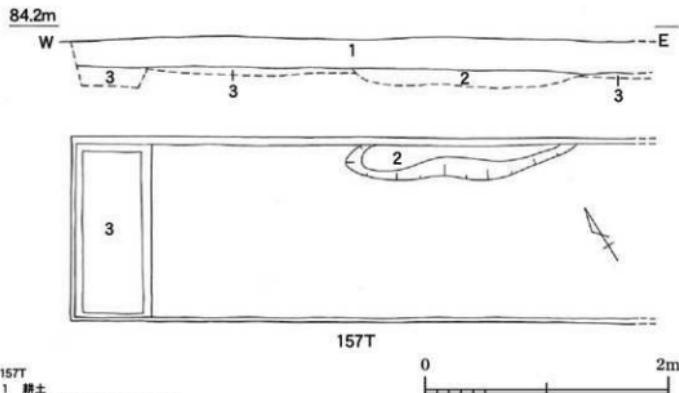
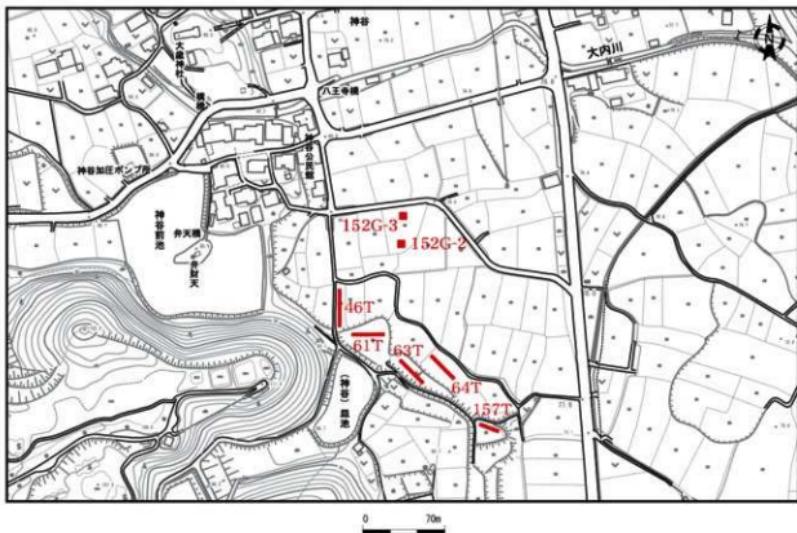
## 157T

3層からなる。第1層は耕土、第2層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第3層は暗灰黃褐色シルト質粗砂、第4層は地山である。第2層は、トレチの東西で堆積状況が異なるが、水田成形時の造成によるものと思われる。土器片が出土しているが、2次的移動によるものと考えられる。

土師器片や須恵器片が採集されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

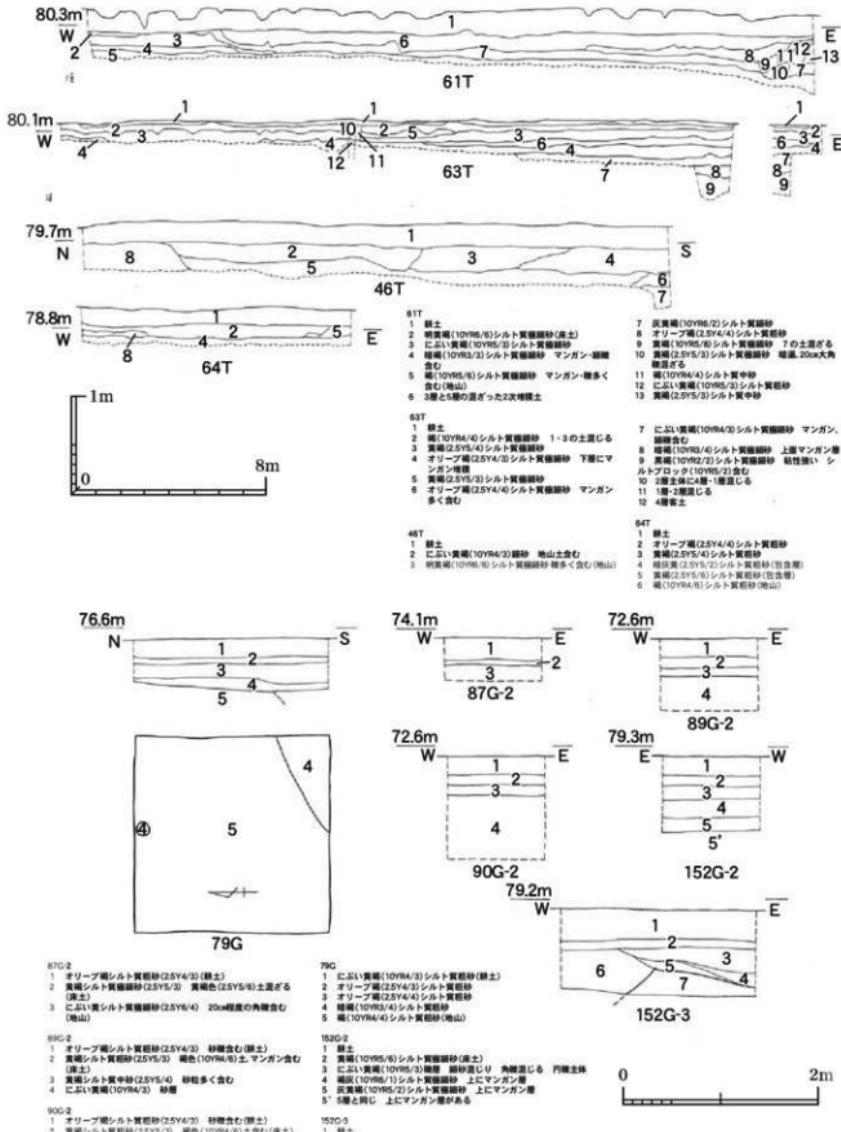
## 64T

2層からなる。第1層は耕土、第2層は地山である。地山直上から土坑が確認された。遺物は確認されなかった。



- 157T
- 1 耕土
  - 2 黄褐色(2.5Y5/4)シルト質粗砂
  - 3 暗灰黄(2.5Y5/2)シルト質粗砂 2の土混ざる
  - 4 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂 3の土混ざる
  - 5 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質粗砂
  - 6 黄褐(2.5Y5/3)シルト質粗砂
  - 7 黒褐(2.5Y3/2)シルト質粗砂
  - 8 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂 10cm程度の角礫混ざる

遺構図



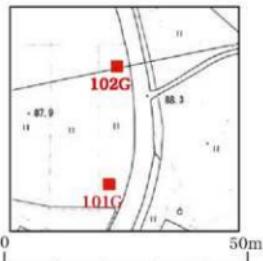
## 桜東畠遺跡

### 101G

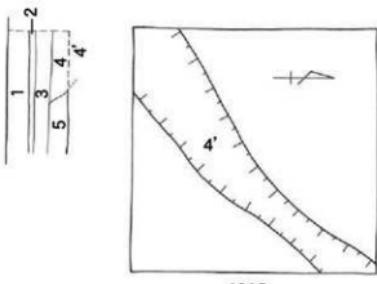
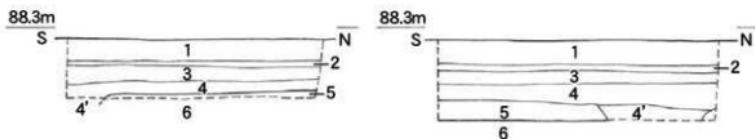
6層からなる。第1層は耕土、第2層は灰黄褐色シルト質極細砂、第3層はにぶい黄褐色シルト質極細砂、第4層は黒褐色シルト質極細砂（礫含む）、第5層は黒褐色シルト質極細砂、第6層は地山である。地山から溝状の遺構が確認された。

### 102G

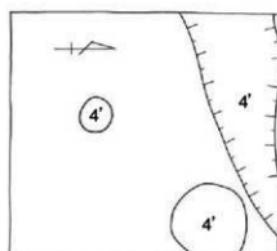
6層からなる。第1層は耕土、第2層は褐シルト質極細砂、第3層以下は101Gと同じである。地山から溝状遺構とピット2基が確認された。



グリッド配置図



101G



102G



#### 101G

- 1 黄灰(10YR4/1)シルト質極細砂 (耕土)
- 2 灰黄褐(10YR5/2)シルト質極細砂
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)細砂 マンガン含む
- 4 黒褐(10YR3/2)シルト質極細砂 磐含む
- 4' 黒褐(10YR3/2)シルト質極細砂 黏性強い
- 5 にぶい黄褐(10YR6/4)砂礫層
- 6 黄褐(10YR5/6)シルト質極細砂 (地山)

#### 102G

- 1 耕土
- 2 褐(10YR4/4)極細砂 鉄分多く含む
- 3 暗褐(10YR3/3)シルト質極細砂
- 4 黑褐(10YR3/2)シルト質極細砂 磐含む
- 4' 黑褐(10YR3/2)シルト質極細砂 黏性強い
- 5 にぶい黄褐(10YR6/4)砂礫層
- 6 黄褐(10YR5/6)シルト質極細砂 (地山)

土層図

### 神谷ヤブノハナ遺跡

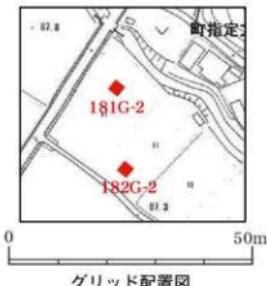
#### 181G-2

6層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層は暗オリーブ褐シルト質粗砂、第5層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第6層は褐シルト質粗砂である。

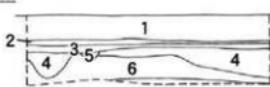
顯著な遺構は確認されなかった。

#### 182G-2

6層からなる。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層は褐シルト質粗砂、第5層は灰黄褐シルト質粗砂、第6層はにぶい黄褐シルト質中砂である。第5層からピット状遺構が確認された。

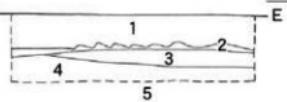


87.7m



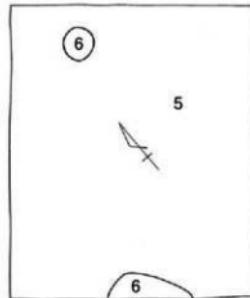
181G-2

87.4m



- 181G-2
- オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質粗砂
  - オリーブ褐(2.5Y4/6)シルト質粗砂
  - 黄褐(2.5Y5/4)シルト質粗砂 マンガン含む
  - 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質粗砂
  - にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質粗砂
  - 褐(10YR4/4)シルト質粗砂 炭含む

- 182G-2
- 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質粗砂(耕土)
  - 黄褐(2.5Y5/6)シルト質粗砂(床土)
  - 黄褐(2.5Y5/4)シルト質粗砂
  - 褐(10YR4/4)シルト質粗砂
  - 灰青褐(10YR5/2)シルト質粗砂  
黒褐(10YR2/3)土, 5cm大根混ざる
  - にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質中砂

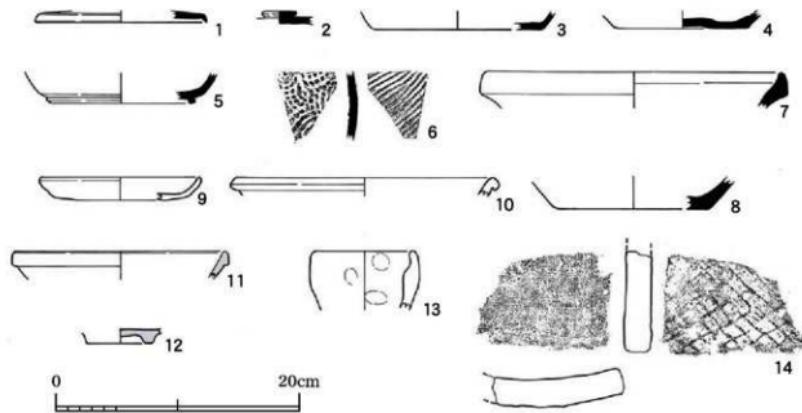


土層図

## ○出土遺物

須恵器、土師器、陶磁器、瓦、貨幣が出土した。コンテナ1箱分と少ない。14点図化した。

1は須恵器杯蓋で口縁部のみ残存している。外面ヘラ削り調整で口縁端部は外側へくの字状に摘む。2は須恵器杯蓋で、扁平な摘みである。3、4は須恵器杯である。3は底部にヘラ切り痕が見られ、4はヘラ切後未調整である。5は須恵器杯で貼り付け高台を持つ。底部は一部残存しており、ヘラ切り後未調整である。6は須恵器甕の体部である。外面調整は平行タタキ、内面調整は同心円文タタキである。7、8は須恵器鉢である。7は口縁部で、端部がくの字状に屈曲しており、先端を丸くおさめる。8は底部で摩滅が激しく調整が不明である。9は手づくねの土師器皿である。胎土は赤褐色を呈している。口縁端部を垂直に立ち上げている。10は土師器甕の口縁部である。端部を折り返している。11、12は白磁碗である。11は口縁部で宽带状に肥厚している。12は底部で削り高台である。13は製塙土器で、内面に指頭圧痕が顕著に見られる。口縁端部を丸くおさめる。14は平瓦である。摩滅が激しいが、外面は格子目タタキ、内面は布目痕が見られる。図化はしていないが、63Tから寛永通宝が2枚、裏面が重なった状態で出土した。整理中にはがれたが、裏面に文字や模様は確認できなかった。



遺物実測図

報告番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	杯蓋	157T	(14.0)	残0.9	ロクロナデヘラケズリ	ロクロナデ		
2	須恵器	杯蓋	63T 断割り		残1.1	ヘラケズリ			
3	須恵器	杯	157T 排土		残1.4	(14.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
4	須恵器	杯	157T		残1.5	(11.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
5	須恵器	杯	61T		残2.6	(12.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	
6	須恵器	甕	63T 断割り		残5.6		平行タタキ	同心円文タタキ	
7	須恵器	鉢	61T	(24.0)	残2.9		ロクロナデ	ロクロナデ	自然軸付着
8	須恵器	鉢	64T		残2.5	(12.0)			
9	土師器	皿	63T	(13.0)	1.9	(10.8)			手づくね
10	土師器	甕	64T	(21.0)	残1.5		ヨコナデ	ヨコナデ	
11	白磁	碗	63T	(17.0)	残2.3				施釉
12	白磁	碗	157T		残1.2	5.4	ロクロナデ	ロクロナデヘラケズリ	
13	土師器	製塙土器	157T	(7.8)	残4.7				指頭圧痕あり
14	瓦	平瓦	63T 排土		8×11.5	厚2.2			

遺物観察表



出土錢貨



(表)

(裏)

遺物写真

グリッド (トレンチ)No.	調査日 (令和元年度)	住 所	遺跡名	遺 構	面深度 (cm)	遺 物	備 考
32G-1	11.11	高岡字観音堂	観音堂遺跡				旧河道
35G-2	11.11	高岡字観音堂	観音堂遺跡				旧河道
35G-3	11.11	高岡字観音堂	観音堂遺跡				旧河道
40G-2	11.12	高岡字観音堂	観音堂遺跡	溝	50	土師器、須恵器	旧河道
41G-2	11.12	高岡字観音堂	観音堂遺跡				旧河道
41G-3	11.12	高岡字観音堂	観音堂遺跡			土師器、須恵器	旧河道
46T	8.26~9.13	高岡字中溝				土師器、須恵器	旧河道
61T	8.26~9.13	高岡字中溝				土師器、須恵器	旧河道
63T	8.26~9.13	高岡字中溝				土師器、須恵器、土鍾	旧河道
64T	8.26~9.13	高岡字中溝				土師器、須恵器	旧河道
79G	2.25	高岡字宮ノ前	宮ノ前遺跡	溝・ビット	55	土師器	旧河道
87G-2	11.13	高岡字宮ノ前	宮ノ前遺跡				旧河道
89G-2	11.13	高岡字宮ノ前	宮ノ前遺跡				旧河道
90G-2	11.13	高岡字宮ノ前	宮ノ前遺跡				旧河道
101G	2.26	高岡字東畑		溝	45	土師器	旧河道
102G	2.26	高岡字東畑		溝・ビット	55		
152G-2	2.25	高岡字南八王寺				土師器	
152G-3	2.25	高岡字南八王寺					旧河道
157T	8.26~9.13	高岡字椿山東	宮ノ前遺跡	土坑	25		旧河道
181G-2	11.30	高岡字二本木	神谷ヤブノハナ遺跡			土師器	調査対象外
182G-2	11.30	高岡字二本木	神谷ヤブノハナ遺跡	ビット	55	土師器	

調査一覧

## ○まとめ

今回の調査は、高岡福田地区は場整備事業地内における遺構の範囲を確認するために追加で行った調査である。

平成28年度の調査で新たに確認された桜東畠遺跡では、東側に近接して事業地が増加されたため試掘調査を行った。調査の結果、101G、102Gともに遺構が確認された。桜東畠遺跡として遺跡発見届出を県教育委員会に進達し、事業着手にあたっては94条通知の提出をもって着手することとする。

観音堂遺跡では、6か所のグリッドを設けたところ、遺跡の北東部においては旧河道と思われる土層が確認されたため本調査の対象外とし、40G-2においては安定した面が確認されたことから、調査対象と判断する。

宮ノ前遺跡では、5か所の確認調査、近接地として4か所の試掘調査を実施した。遺構が確認されたのは、79Gのみである。遺跡東側に設けた87G-2、89G-2、90G-2からは河川堆積層が確認され、本調査対象外と判断する。157G-2からは土坑状の遺構が確認されたが、遺物が皆無であることから遺構とは判断し難いため、本調査対象外と判断する。試掘調査として設けたトレーンチからは、部分的に土器片が採集されたが、遺構に伴うものではなく、ローリングを受けていることから二次的移動によるものと思われる。宮ノ前遺跡では、平成28年度の調査でも明らかとなつたように、遺跡東側は旧河道や氾濫原であり、今回の調査で新たに遺跡西側も旧河道や氾濫原であることが分かった。遺構の中心は県道側であろう。

神谷ヤブノハナ遺跡の181G、182Gでは平成28年度に試掘調査を実施しており、遺構が確認されたため新たに遺跡となった箇所である。今回は、遺構の範囲を確認するために調査を行った。調査の結果、両グリッドから遺構が確認されたため本調査の対象とする。

152Gは、平成28年度の調査で安定した面と須恵器片が採集されたため設けたグリッドである。調査の結果、筆の南側に設けた152G-2からは河川堆積層、北側に設けた152G-3からは安定した面が確認された。観音堂遺跡の端にあたるものと思われ、遺構が確認されなかつたことから調査対象外とする。





46T全景



61T北壁



重機掘削



61T遠景



63T東側断ち割り



63T北壁



64T遠景



人力掘削



32G-2調査前



32G-2（南から）



35G-2調査前



35G-2（南から）



35G-2西壁



35G-3重機掘削



人力精査



35G-3（南から）



40G-2北壁



41G-2北壁



41G-3北壁



記録作業



79G 調査前



79G 遺構検出状況



埋め戻し状況



埋め戻し後



87G-2 北壁



90G-2 北壁



90G-3 北壁



埋め戻し状況



152G-2 南壁



152G-3 北壁



人力精査



埋め戻し状況



157G調査前



157G（南から）



重機掘削



作業のようす



181G-2（南から）



182G-2（東から）



埋め戻し状況



埋め戻し後



101G重機掘削



101G構造検出状況



102G北壁



人力精査



埋め戻し状況



埋め戻し後

## II 神崎郡福崎町山崎所在朝谷1号墳の測量調査報告

### 1. 調査に至る経過

朝谷1号墳は、神崎郡福崎町山崎に所在する円墳である。墳丘及び石室がほぼ残っており、『福崎町史』第三巻でその存在が報告されているが、これまで詳細な測量図が作成されていなかったため、今日的な視点での資料化とはなっていなかった。そこで、令和元年度に町教育委員会主体で測量調査を実施することにした。

測量調査は令和2年1月6日～3月31日のうち6日間で行った。

地権者の藤木敬雄氏には調査の実施について快諾をいただいた。記して感謝申し上げる。

### 2. 調査体制

朝谷1号墳の測量調査体制は以下のとおりである。

調査・整理作業担当

福崎町教育委員会

社会教育課主査 樋口 碧

埋蔵文化財調査専門員 渡辺 昇

調査作業員 長谷川龍雄

整理作業員 梶 智美



朝谷1号墳測量状況

### 3. 位置と周辺の環境

朝谷1号墳は、市川の右岸に位置し、西から東へと下降する丘陵の概ね南東斜面に築造された古墳である。現在は、宅地や畑地が造成されていることから旧状をとどめていない。1号墳に隣接して、2号墳が存在していたと伝わるが、現在の地表面観察では確認することができない。古墳の西側が丘陵の頂部、東部が低位段丘面となっており、古墳は麓肩面に位置する。

朝谷1号墳が所在する山崎地区には、市川から西に約300m離れた低位段丘面に町指定文化財である大塚古墳が単独で所在する。墳丘約30m、石室長12.3mの片袖の横穴式石室をもつ。時期は出土した須恵器から、6世紀後半と考えられる。また、北側の直谷川南岸には馬ウ子古墳が所在していたと伝わる。出土品の中に渡来系遺物である片把手付碗があることが注目される。朝谷1号墳から見て南西方向の丘陵斜面には宮山古墳、上垣内古墳、東大谷古墳、小山古墳の存在が知られている。現在は、福田地区の大歳神社境内に石室の一部が確認されているほか、小山古墳は墳丘が残っており、須恵器の高杯が採集されている。いずれも古墳時代後期の古墳と考えられる。

### 4. 測量方法について

標高は、福崎町が設定した基準点を用いた。墳丘の測量の方法は、墳頂部に任意で設定した点を基準点とし、平板とレベルを用いて墳丘の図化を行った。石室の実測方法は、石室の壁面に基準となる水準線を設定し、床面の中軸は奥壁と玄門部で最大幅となる位置の中点同士を繋いだものとした。この中軸を中心線とし、これに直交する線を設けて石室内にグリッドを設定し、手測りで実測を行った。測量は、樋口、渡辺、長谷川が行い、トレースは樋口、梶が行った。

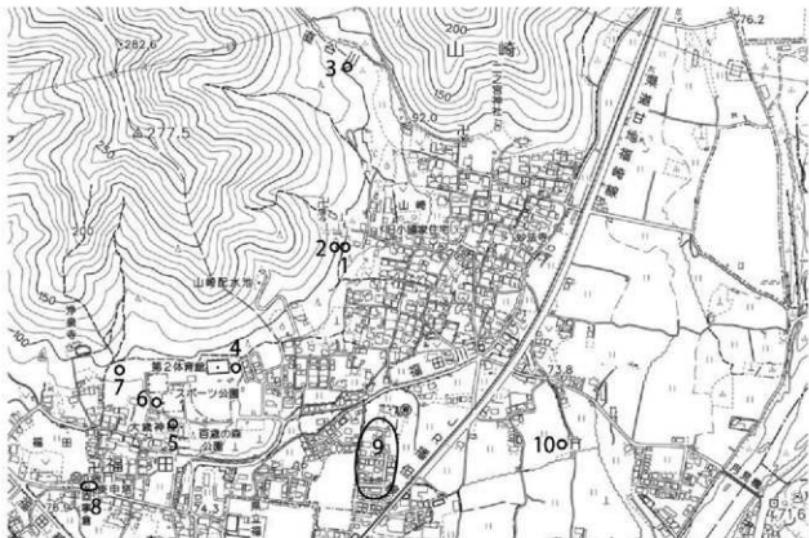


図1 朝谷1号墳周辺遺跡地図

1	朝谷1号墳	2	朝谷2号墳	3	馬ウ子古墳	4	東大谷古墳
5	宮山古墳	6	上垣内古墳	7	小山古墳	8	福田無量寺跡
9	清水遺跡	10	大塚古墳				

朝谷1号墳周辺遺跡地名表

## 5. 測量の成果

### ①墳丘について

墳丘の現状は、墳頂部及び墳丘の東側が里道、西側が果樹園造成のため地形が変わっている。東西で高低差があり、斜面を利用して古墳が築造されたものと考えられる。

墳長は、南北方向に 14 m 以上、東西方向に 13.2 m 以上で、現状では楕円状を呈している。高さは西側で 2.75 m、東側で 1.75 m である。測量時に周溝は確認されなかった。

### ②石室について

石室は南方向に開口しており、主軸はほぼ南北方向である。石室の全長は 8.4m、高さは中央部で 1.63m を測る。左側壁に平面上袖部的な下がりがみられるが、その部分の周辺は木の根により石室がやや崩れおり、袖部との判断がし難い。

石材は流紋岩が使用されている。側壁を構成する石は奥壁側が大きく、開口部側が小さくなっている。右側壁の奥壁側では幅 2.6m の石材が使用されているのに対し、開口部付近では 1.1m ~ 1.4m 程度である。

奥壁は 1 枚石で構築しようとした意図がうかがえるが、石の形状は歪であり、右側壁の目地を通して 0.5m 程度の石で充填している。左側壁側は現状で石材を欠いているが、同程度の石材が使用されていたと思われる。



図2 朝谷1号 墳測量図

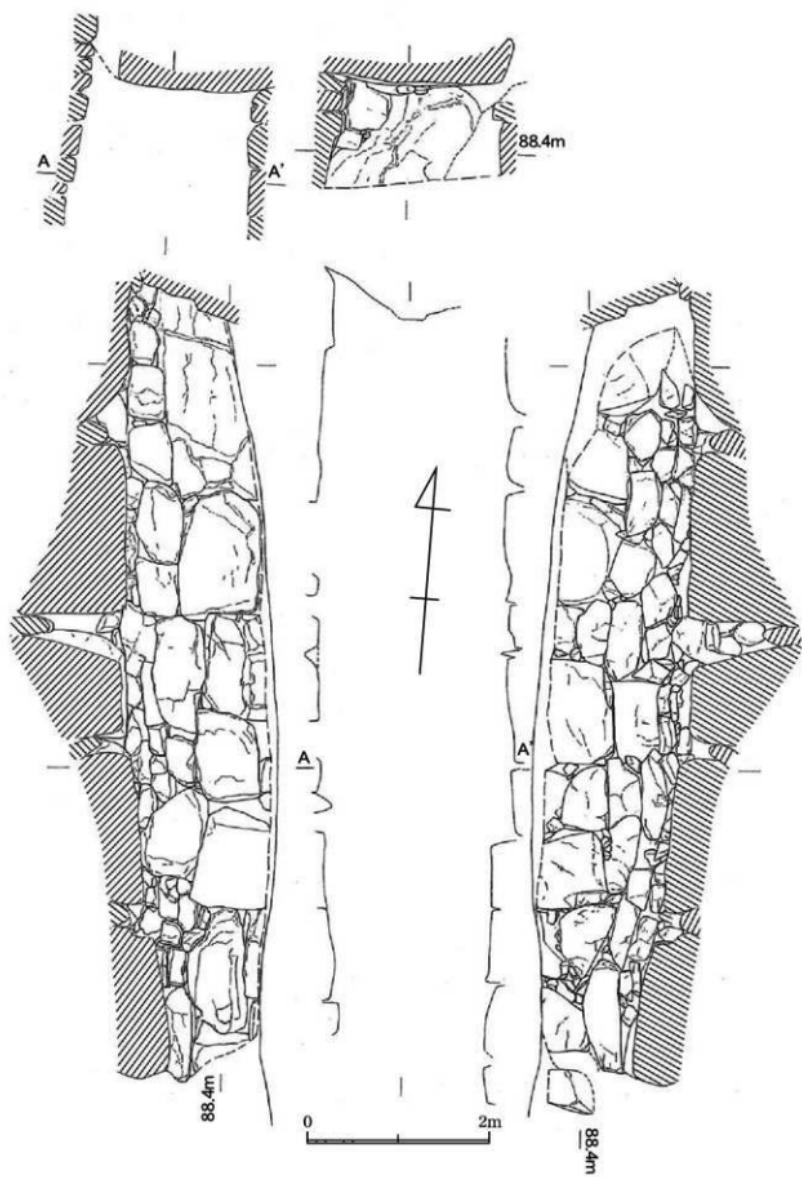


図3 朝谷1号墳石室実測図

石室の幅は奥壁側が 2.03m、開口部側が 1.62m である。奥壁から約 5.8m のところで幅 1.76m となり、開口部に向かって狭くなっていく。ただし、右側壁の段については石材の崩れも見られることから、積極的に袖とは判断しない。また、先述したとおり、目地については西壁は 1 段目が玄室中央辺りで目地のズレが生じているが、2 段目は比較的通っている。東壁は玄室中央辺りで目地が通っているが、奥壁、開口部側でズレが生じている。2 段目は奥壁付近は不明だが、歪ながらもほぼ通っている。天井石付近では拳大の小さな石が使用されている。

天井石は 5 石である。石室内から確認すると、天井石どうしの間は密着しておらず、40 ~ 80 cm 程度の隙間がある。奥壁の一部は欠損しており、そこから石室内に土砂が流入している。開口部からも土砂が流入しているため、石室の床面については不明である。墳頂部では奥壁側の天井石が露出している。墳丘の土砂の多くは失われていると推察される。

## 6. まとめ

福崎町内では 40 基以上の古墳が知られており、そのほとんどが古墳時代後期のものである。朝谷 1 号墳からは古墳に伴う出土遺物は知られていないため遺物からの年代推定はできないが、石室の構造から 7 世紀前半の古墳と考えられる。なお、開口部から弥生土器片を採集している。

今後、土器等の遺物や周溝、段築の有無を確認するためには発掘調査が必要となるが、今回資料化できたことは、地域の古墳社会を考えるうえで貴重な成果であろう。



朝谷 1 号墳開口部



朝谷1号墳墳丘（東から）



朝谷1号墳石室西壁



朝谷1号墳石室東壁



朝谷1号墳奥壁

# 報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	令和元年度発掘調査報告
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	23
編著者名	樋口 碧・渡辺 昇
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2022年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	要因
		市町村	遺跡番号					
みなみた わらあざほくせいい 南田原字北西 しきつ 試掘	ひよこじけんかざほくせいいとくせいわくわいの 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あざほくせいい 字北西3192-1他	28443		34度 57分 10秒	134度 45分 26秒	2019年 4月8、9日	44	試掘
ひれいた わらあざかうう 東田原字垣内田 しきつ 試掘	ひよこじけんかざかううとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町東田原 あざかううた 字垣内田 607	28443		34度 57分 09秒	134度 46分 24秒	2019年 7月2日	4	試掘
やまとああじ どう かいた 山崎字地蔵垣内 しきつ 試掘	ひよこじけんかざああじとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町山崎 ああじ どう かいた 字地蔵垣内930-1	28443		34度 58分 11秒	134度 45分 20秒	2019年 7月2日	4	試掘
や ちくすあざ お でりて 八千種字小倉部 かいた しきつ 垣内試掘	ひよこじけんかざおとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町 や ちくすあざ お でりて かいた 八千種字小倉部垣内1694	28443		34度 55分 42秒	134度 47分 17秒	2019年 7月9日	4	試掘
にじた わらあざまえだ 西田原字前田 しきつ 試掘	ひよこじけんかざまえだとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あざまえだ ばん 字前田1701番3	28443		34度 57分 06秒	134度 45分 53秒	2019年 8月21日	8	試掘
にじた わらあざらはた 西田原字裏畠 しきつ 試掘	ひよこじけんかざらはたとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あざらはた ばん 字裏畠1479番	28443		34度 57分 19秒	134度 45分 49秒	2019年 10月1日	8	試掘
ふくさしまんあざいな ば ぐち 福崎新字因幡 しきつ 試掘	ひよこじけんかざいなば ぐちとくせいわくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町 ふくさしまんあざいなば ぐち ばん 福崎新字因幡78、80番	28443		34度 57分 17秒	134度 45分 05秒	2019年 11月19日	24	試掘
みなみた わらあざほくせいい 南田原字北西 しきつ 試掘	ひよこじけんかざほくせいいとくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町 みなみた わらあざほくせいい 南田原字北西2719番5他	28443		34度 57分 06秒	134度 45分 27秒	2019年 12月 9,18日	20	試掘
なかみた いせき 中溝断跡 だい じ (第4次)	ひよこじけんかざいせきとくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町 なかみた いせき 福田字中溝299-6	28443	410140	34度 57分 36秒	134度 45分 01秒	2019年 12月18日	8	確認
おおきの まみみみかいた 大賀字南垣内 しきつ 試掘	ひよこじけんかざまみみかいたとくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町大賀 おおきの まみみ 字南垣内404-1他	28443		34度 56分 33秒	134度 47分 04秒	2019年 12月26日	4	試掘
きたの さん ぶ ち 北野字南布地 む じ (第9次)	ひよこじけんかざさんぶちとくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町 きたの さん ぶ ち 西田原字西布地1002	28443	410113	34度 57分 21秒	134度 45分 58秒	2020年 1月26日	5	確認
みなみた わらあざじ いわ 南田原字西垣内 しきつ 試掘	ひよこじけんかざじいわとくせいわく 兵庫県神崎郡福崎町南田原 みなみた わらあざじ いわ 字西垣内2467番の一部	28443		34度 56分 38秒	134度 45分 08秒	2020年 2月17日	4	試掘

2022年2月28日 印刷

2022年2月28日 発行

埋蔵文化財調査報告書  
令和元年度発掘調査報告  
福崎町埋蔵文化財調査報告23

編集・発行 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1  
福崎町教育委員会

印 刷 クリヤ印刷所